

**Q 8****道徳の時間の基本的な指導過程は、どのようなものですか。****－ポイント8－**

- 「導入」「展開」「終末」の各段階を設定するのが一般的
- 道徳の時間の特質に応じた指導過程を工夫する
- 過度に固定化、形式化することなく、弾力的に扱う

道徳の時間の指導過程は、一般的には、「導入」「展開」「終末」の各段階を設定することが広く行われています。

導 入	主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階
	[指導の工夫例] ○ 本時の主題に関わる問題意識をもたせる ○ 資料の内容に興味や関心をもたせる ○ 学習への雰囲気作りをする など
展 開	中心的な資料によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値についての自覚を深める段階。
	[指導の工夫例] ○ 効果的な資料提示を工夫する ○ 児童生徒の実態と資料の特質を押さえた発問を工夫する（中心発問、基本発問、補助発問 など） ○ 児童生徒が主体的に自己の生き方や人間としての生き方を追求し、思考を深める工夫をする など
終 末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につなぐ段階。
	[指導の工夫例] ○ 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる ○ 学んだことを更に深く心に留めたり、今後の思いや課題について考えたりする ○ 書く活動、教師の説話、ゲストティーチャーの活用 など

指導過程の構成に当たっては、児童生徒が自己を見つめ、道徳的価値の内面的自覚を図り、道徳的実践力を主体的に身に付けられるよう、工夫することが大切です。また、いたずらに固定化、形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫が大切です。

児童生徒の心に響く道徳の時間となるよう、指導過程を工夫しましょう。